

ロマン諸語における語の有縁性と比喩表現について (7)-1

— ロマン諸語（フランス語，イタリア語，ルーマニア語，スペイン語，ポルトガル語）と日本語の故事・諺・成句に見られる季節名・月名・曜日名による比喩表現を中心として —

小 倉 博 史

〈Résumé〉

En français, L'expression *morte saison* signifie « période de déclin ou d'arrêt de l'activité dans un secteur de l'économie ». Son origine décrit la saison où la terre est morte, ne produit rien. *être de saison* signifie « être opportun, convenable, de circonstance », surtout un emploi négatif.

A l'opposé, lorsqu'on dit d'une chose qu'elle est *hors de saison*, on veut dire qu'elle est « déplacée, inopportune ». En français, en italien et en roumain, les expressions ayant pour thème l'été comportent souvent des noms de saints et expriment le temps. En japonais, les noms de saisons donnent naissance à des expressions permettant de parler du temps de chaque saison.

0. はじめに

季節とは毎年、規則的に繰り返される天文または気象現象に基づき、一年を区分したもので、慣習上一年を等分して四季とする。四季の変化は太陽高度の年変化によって生ずる日射量、気温の変化に起因する。四季の概念は中緯度地方（温帯）固有のもので、北半球では春は3～5月、夏は6～8月、秋は9月～11月、冬は12月～2月とする。これは科学的ではなく便宜的な区分である。高緯度地方では夏は短いかこれを欠き冬が長い。低緯度地方（熱帯）では気温の変化が小さく、雨期と乾期だけに区分され、太陽高度の高い時季（夏）に雨期となる。天文学的な季節では、春分から冬至を春、夏至から秋分を夏、秋分から冬至を秋、冬至から春分を冬とする。この季節区分は日本に伝わり、長い間用いられ、現在でも用いられているが、この季節区分は機械的なため、実際の天候の移り変りとはあわない点が多い。一方、自然季節では、実際の天候推移に基づき分けた季節を言う。日本では春、梅雨季、盛夏、秋霖季、晩秋、冬の6つに大別される。日常生活や長い年月にわたって日数を数えるのに便利な方法として考えられたのが暦である。日数を数えるといっても無限に、はじめ終わりなく続き日を何の区切りもなく際限なく数えていくわけにはいかない。その区切りとして採用されたものが週であり、月であり、年である。さらに紀元とか年号も用いられる。区切りの中で日、月、年などは地球、月、太陽などに関係した自然の周期であり、一日の細分である時間とか週は人工的なものである。これらの周期を適当に組合

せて日を数える方法を示すものが暦法ということが出来る。これらの周期のうち太陽によるものを主に考えた暦法が太陽暦、月の運行の周期を主にしたものが太陰暦、月によって毎月のはじめや長さを決めるが、季節と日付との調節を考えて適当に閏月を考えた暦法が太陰太陽暦である。そこで本稿では、ロマン諸語と日本語の故事・諺・成句にみられる季節名、月名、曜日名による比喩表現を比較し、日本と西洋諸国の文化の違いについて考察するとともに、ロマン諸語間の比較を通して共通点および相違点を明らかにする。

1-1. saison・季節

季節	種類	表現	意味	転義
saison	隠喩 機会	donner saison	(季節を与える→) 機会 を与える	(農作業などの) 時期, 収穫期, (人間活動の) 活動期, (服飾) シーズン, 湯治 (の時期), 時機, 好機
	隠喩 適切	être de saison R ¹⁾	(季節に属している→) 時宜にかなっている, 適切である	
	隠喩 不適切	être hors de saison R	(季節外である→) 時宜にかなっていない, 不適切である, 時期外れである	
	隠喩 季節労働	faire la saison R	(季節を作る→) シーズン客目当ての商売をする, (農繁期に) 季節労働する	
	隠喩 農閑期	saison morte	(死んだ季節→) 農閑期, (経済活動の) 沈滞期	
(ital.) stagione	隠喩 繁忙期	alta stagione	(高い季節→) (観光について) 繁忙期,	農耕, 作物などの) 節, 旬, 行事などの) シーズン, 時, 時候, 時代, 時機, 機会
	隠喩 客足が少ない時期	bassa stagione	(低い時期→) 客足が少ない時期	
	隠喩 暇な時期	stagione morta	(死んだ季節→) 商売の暇な時期	
	隠喩 晴天の多い時候	la bella stagione	(美しい時候→) 晴天の多い時候	
	隠喩 春・夏	la buona stagione	(良い季節→) 春・夏	
	隠喩 悪い時候	la brutta stagione	(嫌な時候→) 悪い時候	
	隠喩 秋・冬	la cattiva stagione	(悪い季節→) 秋・冬	

(roum.) anotimp				
(esp.) estación	隠喩 ガソリンスタンド	estación de servicio	(サービスの季節→) ガソリンスタンド, サービスステーション	, [ラジオ・TV]局, 観測, 研究所施設, 滞地, 生息
	隠喩 ワークステーション	estación de trabajo	(仕事の季節→) ワークステーション	
(port.) estaçao				本義) 立ち寄り, 停, 駅 (転義) 季節機会, チャンス, シーズン

フランス語では、季節に属すから適切である。季節外であるから不適切である。イタリア語では季節あるいは時候の意で、良い時候から晴天の多い時候、良い季節から春・夏の意、嫌な時候から悪い時候、悪い季節から秋・冬の意、スペイン語では季節と同様に駅、施設の意があることからサービスの施設、仕事の施設から前者はガソリンスタンド、後者はワークステーションの意。ポルトガル語では、本義が駅で、転義が季節である。

1-2. saison・季節による比喩表現の要因

	特性	連想	諺	その他
フランス語	2	2		1
イタリア語	2	3		
ルーマニア語				
スペイン語				2
ポルトガル語				

2-1. printemps・春

季節名	種類	表現	意味	転義
printemps	諺	Une hirondelle ne fait pas le printemps ²⁾	(一羽のツバメでは春が来ない→) 一事で万事を計るな	青春, 若い盛, 発展期, 変革期, 芳紀
	隠喩	C'est le printemps.	春だ, 青春だな (急に陽気になったり, 恋愛づいたり, にきびがでた人などについて言う)	

(ital.) prima- vèra				(希望に満ちた) 初期, 青春期, サクラソウ
(roum.) prima- vára				
(esp.) prima- vera				青春 [期], 盛の年, (若い女性の) 年, サクラソウ
(port.) prima- vera				青春, [詩語] 歳, サクラソウ

[成果]

春植えざれば秋実らず：もとになることをしておかなくては，成果を得られないことのこのことのとえ。

[晴れ]

春海秋山：春は海が，秋は山が晴れるとよい天気になるということ。

[にわか雨]

春沖秋山：春は海の沖合が曇り，秋は山の方が曇れば俄雨が降るということ。

[日照り]

春の朝焼けは日照り：ふつう朝焼けは雨の前兆だが，春は日照りになるということ。

[長いもの]

春の日に継ぎをしたよう：長い春の日に，さらに継ぎ足しをしたよう。ながいもののとえ。

[呑気なこと]

春の日に庇をかける：呑気な人を評していう。

[思春期]

春の目覚め：思春期になって性の欲望が生じること。

フランス語の諺のみにギリシアのアリストテレスが引用した表現がある。

2-2. printemps・春による比喩表現の要因

	特性	連想	諺	その他
フランス語	1		1	
イタリア語				

ルーマニア語				
スペイン語				
ポルトガル語				

3-1 été・夏

季節名	種類	表現	意味	転義
été	隠喩 小春日和	l'été de Saint-Luc R	(聖ルカの夏→) 聖ルカの祝日 (10月18日)の頃の陽気: 小春日和 (10月中旬)	夏らしい夏
		(l') été de Saint-Martin R S ³⁾	(聖マルタンの夏→) 聖マルタン記念日 (11月11日)の頃の陽気: 小春日和 (11月初旬から中旬), 老人の若返り	
	隠喩 北アメリカの小春日和	l'été indien = l'été des Indiens [des Sauvages] R S	(インディアンの夏→) (北アメリカの) 小春日和 (10月中)	
	隠喩 夏服を着る	se mettre en été R S	(夏に入る→) 夏服を着る	
(ital.) estate	隠喩 小春日和	l'estate di S. Martino	(聖マルティナーノの夏→) 聖マルティナーノの祝日の頃の穏和な天気, 小春日和, 若返り	
(roum.) vara	隠喩 小春日和	vara sfintilor arhangheli	(聖大天使の夏→) 小春日和	
(esp.) estío				
(port.) estio				成熟期

[楽あれば苦あり]

夏歌う者は冬泣く: 夏に遊びくらすと, 冬になって貯えがなくて苦しむこと。

[痩せた人]

夏の鱈で痩せっぽち: 痩せた人をたとえていう。

[根性が悪い]

夏の鯛で腹が悪い: 夏の鯛の内蔵が腐敗しているの意の「腹が悪い」に腹が黒いの意をかけて

いうしやれ。

[雨が降る]

夏の夕焼け雨が降る：夏の日の夕焼けは、翌日雨が降る前兆である。

[つまらないこと]

夏の風邪は犬も引かぬ：夏に風邪を引くのは全くつまらないということ。

[不用]

夏の小袖：小袖は冬着として用いるところから、時期はずれで不用なものをいう。

フランス語とイタリア語では聖マルタンの祝日の頃の夏から11月初旬～中旬の小春日和、ルーマニア語も聖大天使の夏から小春日和、フランス語だけにみられるものとしては、10月中旬の小春日和を聖ルカの夏と言ひ、夏に入るから夏服を着るの意。インディアンの夏から北アメリカの小春日和の意。スペイン語、ポルトガル語にはみられない。

3-2. été・夏による比喩表現の要因

	特性	連想	諺	その他
フランス語	1	3		
イタリア語		1		
ルーマニア語	1	1		
スペイン語				
ポルトガル語				

4-1. automne・秋

季節名	種類	表現	意味	転義
automne	隠喩 凋落期	être à l'automne de sa vie	(人生の秋にいる→) 凋落期にいる	(人生の) 成熟期, 凋落期
(ital.) autunno		l'autunno della vita	(人生の秋→) 初老期	(衰退期の前の) 初老期
(roum.) toamnă				
(esp.) otoño		el otoño de la vida	(人生の秋→) 初老期	初老期
(port.) outono				収穫期, 衰退, 初老期

[雨]

秋の朝焼けは雨が近い：秋に朝焼けがするのは、近いうちに雨の降る兆しである。

[心変わり]

秋の風：「秋」に「飽き」をかけて、物事がいやになること。心変わりすること。

秋の空：秋は天候が変わりやすいところから、気持ちが変わりやすいのたとえ。

[飽きる]

秋を吹かす：「秋」を「飽き」にかけていう。飽きて嫌になる。主として男女の愛情のさめることをいう。

人生の秋という表現でフランス語、イタリア語、スペイン語では成熟期（初老期）の意。ルーマニア語を除くロマン諸語では、秋そのものが成熟期（初老期）の意である。四季を人生に見立てたメトニミーである。

4-2. automne・秋による比喩表現の要因

	特性	連想	諺	その他
フランス語		1		
イタリア語		1		
ルーマニア語				
スペイン語		1		
ポルトガル語				

5-1. hiver・冬

季節名	種類	表現	意味	転義
hiver	隠喩 老年	hiver de la vie [des ans]	(人生の冬→) 老年	[文章] 星霜, 老年
(ital.) inverno				
(roum.) iárna				
(esp.) invierno				(中米) 雨期
(port.) inverno		inverno de vida	(人生の冬→) 晩年	[ブラジル] 雨期, 老年

[風の向き]

冬西風に春東，秋北風に夏南：四季に吹く風向きをいう。

[雪]

冬の南に雪連れる：冬，南風が吹くと雪が降る。

[天候判断]

冬，東風が吹けば雨：「西風が吹けば晴れ，西北風が吹けば雪」と続く。

[繁栄が間近い]

冬来たりなば春遠からじ：つらい厳しいところを耐えぬけば，幸福な繁栄も間近いことのたとえ。

[考える]

冬の蛙で考える：「寒蛙」と「考える」をかけたしゃれ。

フランス語とポルトガル語では人生の冬から老年（晩年）の意。秋と同様に四季を人生に見立てたメトニミーである。

5-2. hiver・冬による比喩表現の要因

	特性	連想	諺	その他
フランス語		1		
イタリア語				
ルーマニア語				
スペイン語				
ポルトガル語		1		

6. おわりに

saizon・季節による表現ではフランス語とイタリア語では季節であるが，スペイン語では施設の意があり，ポルトガル語では本義が駅で，転義が季節である。春についてはフランス語では，人生に見立てて青春の意，夏については，フランス語，イタリア語，ルーマニア語では聖人の日の頃の夏（陽気）から小春日和の意，秋については，フランス語では人生に見立てて凋落期，イタリア語，スペイン語，ポルトガル語では初老期，冬についてはフランス語とポルトガル語では初老期の意というようにメトニミーである。

注

- 1) [R]は「ロワイヤル仏和中辞典」（旺文社）からの引用である。
- 2) 柳沼重剛編：「ギリシア・ローマ名言集」p. 12
- 3) [S]は「新スタンダード仏和辞典」（大修館書店）からの引用である。

参考文献

- 池上峯夫他編 (2003) : 「現代ポルトガル語辞典」, 白水社
 池田廉他編 (1966) : 「伊和中辞典」, 小学館
 桑名一博他編 (1990) : 「西和中辞典」, 小学館
 小学館ロベール仏和大辞典編集委員会編 (1998) : 「小学館ロベール仏和大辞典」, 小学館
 尚学図書編 (1982) : 「故事・俗信ことわざ辞典」, 白水社
 鈴木信太郎他著 (1987) : 「新スタンダード仏和辞典」, 大修館書店
 田辺貞之助編 (1977) : 「フランス故事ことわざ辞典」, 白水社
 田村毅他編 (2005) : 「ロワイヤル仏和中辞典」, 旺文社
 直野淳著 (1984) : 「ルーマニア語辞典」, 大学書林
 A. Rey et S. Chantreau (1985) : « *Dictionnaires des expressions et locutions* » Paris, Robert

